

特集 理事長・学長就任の挨拶

都留文科大学入学式／学外研究報告／ゼミ紹介
昨年度の就職状況／学生による授業アンケート
文大だより／ぶんだい堂



新型コロナウイルス禍における大学の対応

都留文科大学入学式

—— 今年の入学者は八七〇名

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止されました

大学での学びと生活

都留文科大学学長 藤田英典



新入生のみなさん、都留文科大学への入学、おめでとうございます。都留文科大学の教職員を代表して、心から祝福し、歓迎いたします。また、ご家族の皆様にも、心よりお慶び申し上げます。

みなさんは、大学受験という厳しい試練を乗り越えて、都留文科大学に入学されました。合格発表日の喜びとその後のリラックスした気分もつかの間、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、入学式も中止となり、さらに緊急事態宣言下で、期待と不安感や焦燥感の入り混じった日々を過ごされたことと思います。それはご家族のみさまも同様であろうと推察いたします。緊急事態宣言がいつ解除され、通常の授業はいつになるのか、未だ見通しは立っていませんが、遅かれ早かれ解除され、授業も始まるはずですから、都留文科大学での学びと生活について、私なりに大切だと考えていることとみなさんへの期待を中心に述べたいと思います。

大学での学びと生活は、高校までとはいくつかの点で重要な違いがありますが、ここでは、そのうちの2点についてお話しします。その第一は、自由度が大幅に拡大するという事実と、既存の権威や先入観・偏見などに囚われることのない「自由な精神」の形成と発揮が期待されることです。

小学校から高校まで、みなさんは毎日、決まった時間に登校し、朝会・朝礼に臨み、その後は、時間割に従って、平日は午前中4時間、午後2時間の授業を、音楽・図工・体育以外は、同じ教室で受けてきました。授業では教科書があり、基本的にはその内容を理解し、確立した「正しい知識」「正解のある知識」として習得していくことが中心でした。もちろん、

その過程で、思考力・判断力や創造力を育むことも期待されていますが、それらも含めて、学習の成果は、中間・期末の試験や入学試験で試されることになります。

こうした高校までの学習の在り方については、早くから批判もありましたし、近年は教育政策もアクティブ・ラーニング(AL)を推奨するようになっています。そうした、これまでの学校教育の在り方と近年の改革動向の是非についてはさておき、自由度の拡大に話を戻しましょう。

大学では、時間割はありますが、開講科目数が膨大で、それらは必修科目・選択必修科目・選択科目に分かれており、卒業に必要な単位数や教員免許などの取得に必要な単位数を充たすという条件の下に、各自が自分なりの時間割を作ることになります。したがって、大学に来る時間も人によってまちまちですし、空き時間も生じることになります。そして、この特徴は、大学生活全般にも反映されることになります。この点については後で再度言及します。

大半の科目では、教科書に相当するテキストはありますが、そのテキストは、同種の科目であっても、教員や大学によって大きな違いがありますし、その構成や内容も多様です。私は1960年代半ばに早稲田大学政治経済学部で経済学を専攻しましたが、例えば、金融論と貨幣論という科目があり、両者は基本的には類似の現象を扱っているのですが、前者は近代経済学のアプローチ、後者はマルクス経済学のアプローチに立つ内容でした。それほど極端ではないにしても、同じ学問分野のテキストでも著者によってアプローチ・観点や構成・内容にかなり

大きな違いがあります。

こうした事実からも示唆されるように、大学では、特に人文社会学系や教育学系の場合、テキストも講義内容も、必ずしも正しい知識・見方・考え方や学術的に確定した知見を扱い提供しているわけでないということです。そうであるなら、テキストや講義の内容を、たんに理解しようとするだけでなく、批判的に検討し、その妥当性・適切性・有効性などを検証し、自分なりに納得しつつ習得していくことが重要だということになります。

この点は、20世紀初頭以降、大学教育の理念とされてきた「研究を通じての教育」に通じることもあります。大学での教育は持続的な研究の成果に基づき更新されつつ行われるべきものであり、学生はその研究成果を一方的に受け入れ学ぶのではなく、自らも探究者としてその成果を批判的に吟味し、時には疑問や問題を提起し、検証し発展させていくことが期待されているのだということです。そのためにも、教室の内外で、テキストだけでなく、種々の関連図書を読み、教員や仲間と議論し、権威や先入観・偏見などに捕らわれることのない「自由な精神」を育みつつ、学んでいくことが重要です。

第二に、〈共感し協働する知性〉を育むことの重要性を強調しておきたいと思います。冒頭でも言及した新型コロナウイルス感染症は、WHO（世界保健機関）によりパンデミックと認定されましたが、この大流行の終息には、国内はもとより、世界的にも、政府・自治体・関係各機関レベルでも、病院・医師会・企業・学校などのレベルでも、個々人のレベルでも、様々な側面で叡智を結集し、協力・協働していくことが不可欠です。そして、その際、それぞれの立場と責務や願い・不安や苦境などにも思いをいたし、振る舞い対応していくことが望まれます。

ここでは、「英知」ではなく、あえて「叡智」と書きましたが、それは、〈共感する知性〉に通じる面も含めて考えたいからです。英知も叡智も「道理や真実を見極める優れた才知」という意味の言葉ですが、前者は合理性・論理性や効率性・有用性を重視する科学技術に根差す才知であるのに対し、後者は英知を超えた要素、心理的・情動的な側面、洞察力や共感も含む言葉として使っています。心理学などで区別されている認知的共感と情動的共感とも言えます。

ウィーン生まれの哲学者・文明批評家イヴァン・イリイチは『脱学校の社会』（Deschooling Society, 1971年、邦訳1977年）のなかで、プロメテウスの人間とエピメテウスの人間を区別しましたが、英知と叡智の区別は、天界から火を盗んで人類に与えた兄プロメテウス（科学技術の進歩の象徴）と、悩める人の傍らに寄り添う弟エピメ

テウスとの対比と重なるものです。どちらも重要ではありますが、あえてお話ししたのは、新自由主義・成果主義や自己責任論を重視する近年の風潮を踏まえると、後者の重要性を強調しておくことは、それなりに重要であろうと思うからです。

最後に、都留文科大学での大学生活について、簡単に述べておきます。都留文科大学の学生は、北は北海道から南は沖縄まで、全都道府県からほぼ人口規模に対応して入学されています。その約八割の学生は、親元を離れて、都留市内、大学周辺のマンション・アパートや学生寮に住んでいます。広い意味で下宿生活をされているわけですが、その帰結として、時間的な自由度も非常に高いと言えます。小学校教員免許の取得や二種類以上の免許取得を目指している学生さんは、履修科目も非常に多く、提出課題に費やす時間も多いいと思いますし、授業料や生活費の一部を自分で稼ぐためにアルバイトにかなりの時間を割いている方も少なくないとは思いますが、それでも、高校までとは違って、学生ならではの自由を満喫することができます。これは、自宅通学生の場合にも、程度の差はあれ、当てはまることです。大学生の特権と言ってもいいものです。

しかし、この特権と自由には責任が伴っています。特権は、享受することのできる特別の権利や利益と種々の義務の免除を内容とする概念です。具体的には、例えば、学割や、いろいろな場面で多少なりとも大目に見てもらえとか、家族内での習慣的な義務も免除される傾向にあります。他方、自由は、束縛・強制・義務からの自由と自らの意志に基づく選択・行為の容認・保障を内容とする概念です。こうした特権も自由も、学生という社会的地位に付与されているものですが、その特権・自由も地位も、学業に励み、健全かつ有為な社会人になるための準備期間として付与されるようになってきたものであり、その背後には、社会的な期待と親御さんをはじめとする家族の期待があります。したがって、みなさんには、その二重の期待に応える責任があります。

以上、縷々述べてきましたが、学生時代は、いま述べた自由を満喫することのできる時期であり、また、青春を謳歌することのできる時期でもあります。授業と実習などはもちろん、クラブ活動・サークル活動・自治会活動・学園祭などの課外活動やアルバイトや友人と過ごす時間も踏めて、仲間と切磋琢磨し、豊かな学生生活を過ごされることを期待して、私からの祝辞とします。

令和2年5月

新入生のことば



文学部 比較文化学科
新入生代表 宮澤 由菜

暖かな陽射しと共に、希望の風が吹くこの佳き日に、伝統ある都留文科大学に入学することができたことを、大変嬉しく思います。今日の日を迎えることができたのは、母校の先生方、家族、友人たちなど、多くのの方々の有形無形の支えのおかげです。その事を心に留め、これから始まる大学生活を実りあるものにすべく日々精進していきたいと思います。

今日、世界は大きな混乱の中にあります。新型コロナウイルスは、グローバル化、そしてボーダーレス化を象徴するように世界中へと広まり、WHO がパンデミックを宣言する事態となりました。メディアには入国制限、非常事態宣言、ロックアウトといった、普段ではあまり耳にしない単語が溢れ、人と物の動きが制限されて世界経済の危機が叫ばれている状況です。国内においても、各学校が休校になり、ほとんどのイベントが中止される中で、残念ながら私たちの入学式も中止となってしまいました。オリンピックも一年程度の延期となり、平和の祭典でさえもその影響から逃れることはできませんでした。

しかしこの現状が私たちに改めて気付かせてくれたことがあります。それは私たちの日常の生活も世界に直結

している、という現代社会の常識です。「地球が小さくなった」といわれる現代社会では、世界のどこで起こった出来事も決して「対岸の火事」などではなく、常に自分たちに関係することとなるという事実を忘れてはならない、その教訓を与えてくれたのではないのでしょうか。私たちはさまざまな事に対して今まで以上にアンテナを張りめぐらせ、より一層の注目をしていかなければならない、そう感じさせられています。

また、この混乱をきっかけに差別と偏見が拡大していく可能性も指摘されています。物事の原因を探ることは必要なことです。ただ、それを「誰が悪い」といった議論をするのではなく、現実をふまえて「どう対処するか」という冷静で広い視点こそが求められていると思います。そのためにも、国や人種に対する固定概念にとらわれることなく、異文化を深く理解し、受け入れる姿勢を育てることが必要です。そして、私たちはその絶好の環境を与えられています。

令和最初の入学生となる私たちには全国から、世界から多くの仲間が集まります。四年間の大学生活では困難に出会うことも少なくありません。その様などときには互いに励ましあい支えあえる学友を持ち、問題を克服していきたいと思っております。この都留文科大学で学べることに感謝し、優れた国際感覚を身につけ、異なる習慣や文化との出会いから多くの知識を得て豊かな人間性を磨くとともに、新たな挑戦によって自分の世界を大きく広げ、成長していきたいと思います。

歴史ある都留文科大学の学生として恥じることの無いよう、また、社会に貢献できるよう勉学に励むことをここに誓い新入生の言葉といたします。



教養学部 地域社会学科
新入生代表 久保田 祐

やわらかな風に包まれて、春の訪れが感じられるこの佳き日に、伝統ある都留文科大学に入学することができ、大きな喜びを感じています。これも母校の先生方の熱心なご指導、家族や友人の励ましなど、多くの方の支えがあったのおかげです。そのことを心に留め、これからの四年間の大学生活が充実したものとなるよう、仲間と切磋琢磨し、日々精進して参ります。

2011年の東日本大震災以降、各地で甚大な被害を与える自然災害が立て続けに起き、多くの尊い命が奪われました。住む場所を奪われ、家族や友人を失った人もたくさんいます。そのようにつらい状況の中でも、あきらめずに復興を進め、前向きに生きる方々の姿を通して、困難を乗り越えることの大切さ、そして協力し合うことの大切さを改めて学びました。

年号が平成から令和に変わり、新しい時代を迎えました。急速なグローバル化やIT化によって大きく変化し

た現代に生きる私たちは、便利で豊かな生活を送るなかで、この変化の激しい現代社会の中で生まれた新たな課題に向き合っていかなければなりません。格差の拡大、人と人の関わりやコミュニティの希薄化、少子高齢化や非正規雇用の拡大など、私たちの将来にはさまざまな課題が山積しています。特に今年に入ってから世界各国に感染が広がっている新型コロナウイルスは、いまだ終息の兆しが見えず、私たちの生活に暗い影を落としています。このように、変化が激しく先が予想することが困難な中で、より良い社会を築いていくためには、変化に対応できる知識と教養を身につけ、主体的に考える力と行動力を高めていかなければならないと感じています。現代社会が直面するさまざまな課題を幅広い視野で捉え分析し、柔軟に対応していけるよう、全国各地から学生が集まる都留文科大学で、新しいことに積極的に挑戦し、自分の世界を広げて大きく成長していきたいと思っています。また勉学に励むことは勿論、部活動やサークル活動にも積極的に参加し、多くの人々と交流を深め、豊かな人間性を育んでいきたいと考えています。

私たちは、自分自身を磨くうえで最適な場を得ることができました。この機会を活かし、それぞれが胸に抱く高い志に向かって、一步一步確実に前進していくことを決意し、新入生のことばといたします。

理事長挨拶

理事長 福田誠治



大学院を出てすぐに、この都留文科大学に職を得ました。自分を育ててくれた大学とひとえに思っています。

教育は、他人の良さを見抜き、引き出し、他者を育てる仕事です。

これは、学校の教師だけの仕事ではありません。親も自分の子を育てます。企業のマネージャーも、社員を育てます。

自分を育てるのも、教育です。人間に一生つきまとう仕事です。

日本の教育学の枠組みは、日本の近代化に大きく起因しています。

初代文部大臣森有礼は、小学校、中学校、高等学校は教育を行い、大学は研究を行うというように教育目的を二分しました。

教育は未熟な人間を対象にして国民へと教え込むことで、研究は善悪を自覚し判断ができる自立した成人が理論を極めることだということです。大学進学者数が同一年齢の1%程度のエリートだった時代のことです。

それから150年が経ち、社会は複雑になり、技術革新が進み、人口も増えて大学は大衆化しました。今では同一年齢の50、60%が入学するわけです。

いち早く変化した北米では、大衆化した大学を教育施設、大学院を研究施設として扱うことにします。そして、学力低下した大学生の教育を模索し、アクティブ・ラーニングという授業方法を採用することにしました。これが1991年の話です。

ヨーロッパでは、研究大学を維持しながら、職業系の大学を別系列として拡大再編成することにします。国を越え大学をつないで欧州高等教育圏を作り上げ、大学の単位も統一して新設しました。EUとしての政策が確定するのは2000年のことです。ちなみに、ヨー

ロッパの高等学校は普通科クラスのことです。研究大学入学資格を得るために学ぶ施設です。日米の大学にあるような共通教養の授業は普通科高校で学び終えています。ですから、学士課程は3年制です。

日本は、第二次世界大戦後に、研究大学も含めて大学全体を画一的に大衆化しました。したがって、「自分は何をしたいのか、分からない」「自分は何者なのか、考えたことがない」「留学したいのだけど、本当の気持ちは分からない」という大学生がたくさんいます。日本の学校教育でも、家庭でも、生き方や学び方を自問するような機会が少なかったということです。

日本の大学は制度的には研究大学のままで改革されていませんから、世界経済の巨大な構造変化にはついて行けません。多くの大学教員は、個人の研究成果を一方的に学生に語ることが授業だと未だに思い込んでいます。大学教員は教育職にあり、個々の学生たちが自立できるように教育することを第一の職務としているという自覚は、あまりありません。授業でなくても大学にやって来て、「学生が自分の人生のために学ぶように働きかける」ことにも慣れていません。個人の研究と学生の教育とは表裏一体の関係として実行することは、自己変革なくしては難しいわけです。

本学の先人である大田堯先生や上田薫先生のことをかみしめながら、都留文科大学が末永く存続できるように努力していきたいと思っています。

学長就任の挨拶

学長 藤田英典



この度は、ご縁をいただき、教員養成はもとより、公官庁や民間企業などにも豊かな知性と感性を備えた幾多の人材を輩出してきた伝統ある都留文科大学の学長に就任することになりましたこと、光栄に思い感謝申し上げます。

都留文科大学の特徴は、地元県出身1割、非地元県出身9割という学生の出身地別構成にあります。北は北海道から南は沖縄まで、全都道府県から概ね人口規模に対応して満遍なく集まり学んでいます。この特徴は、山紫水明の豊かな自然と城下町の面影や10基もある松尾芭蕉の句碑に象徴される豊かな歴史・伝統・文化などと相まって、豊かな教育・学びの基盤になっていると思います。また、郊外型の小規模大学という特徴は、学生同士の豊かなつながり・交流はもちろん、学生と教職員との関係も〈顔の見える関係〉として展開する基盤にもなっていると思います。学生と教員が例えば人生や教養を語り合う機会も豊かでしょう。そうした豊かな環境の下、学生さんたちには、キャンパス・ライフをエンジョイしつつ、仲間や教職員と関わり切磋琢磨し、自信と誇りを育み成長していくことを期待しております。

本学は、1960年に4年制大学に移行して以来、「菁莪育才」を学訓として、当初からの初等教育学科と国文学科に加えて、英文学科（1963年）、社会学科（1987年）、比較文化学科（1993年）の新設と定員増、大学院修士課程の新設（1995年）と専攻増設による拡充を進めてきましたが、さらに近年は、前任の福田誠治学長のリーダーシップの下、国際教育学科の新設（2017年）、初等教育学科の学校教育学科への改組（2018

年）、社会学科の地域社会学科への改組（2018年）と、国際交流会館の完成（2016年）、IB Universityに認定（2016年）や、中国・アメリカ・北欧諸国の大学との交換留学制度や語学研修プログラムの開始など、教育体制の充実が図られてきました。

また、福田学長時代に浮上し、都留市のご尽力により計画された本学に隣接する旧合同庁舎の改築と、国の「日本版 CCRC (Continuing Care Retirement Community「継続的なケア付き高齢者共同体」) 政策の下に都留市が進めている「生涯活躍のまち・つる」複合型居住プロジェクトの事業予定敷地内に本学の学生寮などの施設整備を予定しております。

以上のように、福田学長時代に学科の新増設や改組と建物の改築・新築が進められてきましたので、今後は、その内容面のより一層の充実と、急ピッチで進められたことに伴う教員配置のアンバランス等の解消を図っていくことが課題であろうと考えています。

その課題は必ずしも容易でない面もありますが、これまでの発展を支えてきた学訓「菁莪育才」を踏まえ、さらなる発展を期して最善を尽くしてまいる所存です。至らぬ面も少なからずあろうかと思いますが、教職員をはじめ関係各位のご協力・ご支援を賜ることができるなら、この上ない幸いです。

都留の可能性をどう活かすか

副学長（学術研究担当） 田中昌弥



本学に着任して10年にしかならない私が、理事・副学長の重責を担うことには戸惑いもあります。しかし、拝命した以上、一所懸命務めさせていただきますので、何卒ご指導、ご助力をお願い申し上げます。

本学に来て間もなく、複数の古参の先生方から、「都留の教育は優れているから、改革を拒否していれば周回遅れで先頭になる」と真顔で言われたことを覚えています。その当時でも、日本と世界の大学が変化を迫られ、競争の渦に巻き込まれるようになってから20年は経っており、前任校では関連する業務に忙殺されていたので驚いてしまいました。

ただ、時勢に振り回されて教育の本質を見失うべきではないという意味でならそれは当たっています。今回のコロナ禍を巡っても、例えば、世界的な規模で遠隔教育への転換が進む中、本学の未来に悲観的な声も聞かれますが、私は、本学の社会的存在意義がむ

しろ大きくなりうると思っています。リモート技術の普及とコスト面の理由により、講義形式をはじめとした言葉による授業の配信は、大学の垣根を越えていくことになるでしょう。そうなると、一見条件に恵まれているかに思われる都市型の大規模大学の個性が希薄になります。それに対しては、本学が重視してきた地域との連携や具体的な人やモノとのかかわりを通した教育は、感染リスクが残る現時点では困難を抱えています。画一化しにくい性質を持っています。何より、デューイやポランニーを持ち出すまでもなく、具体的な経験という足場を抜きにしては学習というものが成り立ちません。

もちろん、それは、「周回遅れで先頭」といった甘い話ではありません。様々なレベルでの条件整備が必要になります。本学が看板とする地域との連携や具体的な経験を通した学習にしても、さらなる充実が必要です。グローバル化による新しい感染症の流行が今後も

危惧されていますが、そうした状況下でも本学の個性を生かした教育を遂行できるリモート教育の研究も進めなければなりません。

冒頭で述べたように、私が本学に着任してわずか10年ですが、改めて教員名簿を見ると、私よりも後に着任した専任・特任の先生方がすでに三分の二を占めています。福田前学長時代の再編や新学科設立の人事方針により、他業種出身者や若手の採用も増えました。本学の存続は、こうした多様な経験や感覚を持つ構成員がいかにチームワークを組めるにかかっています。その点でもよろしくお願い致します。

まさに『青天の霹靂』、その一言に

副学長（学生・教育担当） 杉本光司



令和2年4月1日、本来でしたら、新しい学年暦とともに、新鮮な気分ですタート台に立っているイメージで頭の中はいっぱいだったと思います。

しかし、現実とはいうと、Web会議システム Teams を使った遠隔参加も可能な臨時教授会の開催に向けて、アプリケーションのインストール、撮影カメラやスピーカーのテスト、使用できるパソコンの確保、更に、全く初めての経験、教授会の司会・進行もしなくてはならず、ほとんどぶっつけ本番の教授会が、私としての理事・副学長時間のスタートイベントでした。

思い起こせば、私に対する副学長就任打診そのものが、まさに『青天の霹靂』。私が本学を定年退職したのは、平成28年（2016年）3月31日でした。情報センター所属の教員としての19年の後は、引き続き情報センター特任教授として、情報系教職科目の担当の他に、図工・美術研究棟2階に設置した『DIGITAL ずこうしつ』の管理・運用も業務として取り込まれ、ここでは、3Dプリンターやレーザーカッターを利用したものづくりを中心に、学部・学科を超えて、ICTを活

用したものづくりに興味のある学生が集まり、文系大学にあって、非常にユニークな場所で過ごした時間は現職時代とは違った味わい深く、今後も大いに魅力あふれる場所として関わりを持ち続けたい空間です。

こうした経験の中で学生・教育担当理事（副学長）就任依頼に対して、正式に承諾させて頂いたのも年明け後でした。その時には、まさか数か月後に日本中、いや世界中がこのような状況になることさえ想像もしていませんでしたので、刻々と伝えられてくる情報の中、学内でもいよいよ大いなる決断を迫られてきていました。そして卒業式中止というこれまでにない状況が目の前に広がり、本学のみならず多くの学校における未曾有の危機管理意識の高まりを痛烈に感じ、年度替わり、その上、学長はじめとする体制スタッフ交代も重なり、早期からの運営企画作成に関わることができなかった歯痒さの中、容赦なく次々と突きつけられる現実。まさに『青天の霹靂』、と嘆き逃げ出すわけにもいかず、これまで都留文科大学で育てて頂いた情報担当教員として身に着けた知識や知恵をつ

ぎ込むのは今しかないという覚悟を決め、一つ一つ目の前に示された課題に向かってきました。幸い、不慣れな私を支えて頂いた多くの先生方や事務局職員のスタッフにも非常に恵まれ、一人抱え込み苦悩することもなく対応させて頂くこともできています。4月22日からの前期授業をすべて遠隔授業として開講して頂くことを決定してからも、遠隔授業に関する説明、Web会議システムを活用した授業展開や課題負荷の軽減のお願い等にも多くの先生方のご協力を頂き、どうにかスタートすることが出来たことには大いに感謝しています。

着任して知ることとなった多くの課題を前にして、不慣れな対応でご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナ禍における大学の対応

令和2年（2020年）2月より日本でも感染が広がった¹⁾新型コロナウイルス（COVID-19）の流行により、日本国内の大学においても入試、新学期開始などに大きな影響と変化が起こった。都留文科大学においても、3月よりさまざまな対応が断続的に起こっている。都留文科大学学報は大学の記録誌としての性格をもち、後世に対して「都留文科大学」を伝える役割がある。今事態は推移している中ではあるが、新型コロナウイルスへの対応を後日振り返るための記録として、特集を組みたいと思う。新興感染症の流行は長ければ数年にわたるもの（スペイン風邪では2年～3年²⁾）であり、本特集は著者を変えて今後断続的に報告をおこないたい。

「新型コロナウイルス」の流行を受けて —令和2年3月一般中期試験前後の対応—



入試管理委員長 日向良和

特集の主旨を受けて、筆者からは、①令和2年3月の一般中期試験前後の対応についてエッセイにまとめた。なおエッセイ中の見解等については、筆者の個人的見解であることを先に表明しておく。大学対策本部等からの公式な報告を後日待ちたい。

令和2年3月8日実施の一般中期試験前後への対応

参考文献の¹⁾にあるとおり、日本においては主に2月下旬ころより、国内での感染が広がり、当時主に北海道におけるクラスター感染や、関東においても感染が広まりつつあった。当時入試管理委員長であった筆者は2月下旬ころより報道などを見ながら、3月8日に実施予定であった一般中期日程試験の実施方法等について、さまざまな検討を迫られることとなった。

都留文科大学は早い時期より全国各地に地方受験会場を設営し、受験生の利便性等に配慮してきた。令和2年2月当時では、中期日程試験会場として全国13会場（札幌、仙台、東京、都留、静岡、富山、名古屋、大阪、広島、高松、福岡、鹿児島、那覇）を設定していた。各会場2名～8名の教員と、2名程度の事務職員を派遣し、かつ本学学生のアルバイト（数名）により、入試が例年行われていた。

1月30日付で、文部科学省は受験への感染症対応として、振り替え受験や、センター試験成績での合否判定などの柔軟な対応を求める通知を出している³⁾。なお通知では、センター試験成績での合否判

定にあたり、“大学入試センター試験を参考にした合否判定を行う場合には、大学入試センター試験と個別学力検査との組み合わせにより合否を判定した受験生における、両試験の成績の相関関係の分析等を行うなど、公平性に配慮”することが注意されている。

2月1日の朝日新聞報道⁴⁾によるとWHOは新型コロナウイルスの緊急事態宣言を発出し、大学受験関連では2月2日の報道⁵⁾では、私立大学受験においてのマスク着用や消毒薬の確保などの受験日の対応や、受験日の振り替えなどの対応が報告されている。この時点で国公立大学の前期試験（2月25日）については何の報道もなく、都留文科大学においても報道を注視していく程度であった。

私立大学の多くが2月上旬から中旬に入試が行われるときは、まだ日本国内での感染数は限定的で、国外からの渡航者の制限で抑え込める見込みがあったようである。2月8日以降、帰国者、接触者相談窓口が全国的に設置⁶⁾されたが、この時点ではまだ市中での感染が広がるとは想定されていなかった。その後クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」乗客の動向、およびチャーター機で中国から帰国した方の動向が報道の中心となり、ある意味では特別な場での出来事のようなであった。この時期、入試本部においては、名古屋会場に入試日と名古屋ウィメンズマラソンの開催日がぶつかり、宿泊先がとれずにどうすべきかを検討しているなど、入試への影響

については、前回の新型インフルエンザでの対応で大丈夫なのではないかという認識であった

報道での潮目が変わり始めたのが2月15日である。この日朝日、読売、毎日の主要3紙が一斉に国内での感染の広がりを報じ始めている。この後、北海道での集団感染や、都内においても感染が広がり、受験会場などでの感染が懸念されていく。

2月下旬の国公立前期試験に向けては、オリンピックへの対応とマスク不足が報道されているが、2月20日の朝日新聞⁷⁾では、岐阜大学が新型コロナウイルスに感染し、治癒していない受験生の受験を認めないという方針を打ち出している。この時の対応については、一般的な受験における病欠への対応であった。2月21日には都立高入試⁸⁾が予定通り行われた。岐阜大に続き、宇都宮大学も感染者の受験を認めない方針を表明⁹⁾したが、感染者が多く出ている北海道大学では2月17日、一部学部では調査書のみでの合否判定により筆記試験を行わない方針が示されている¹⁰⁾。この時点では入試実施はマスク着用や体調管理を呼びかけ、入試自体は通常通り行うことを想定している大学が多かった。2月25日からの国公立前期試験について、本学は筆記試験を課さないため特に対応はなかったが、全国の国公立大学においては、マスクや入り口などでの消毒などの態勢で無事に行われた。

この時期より本学中期試験の実施について懸念が示され、特に感染者の多かった札幌会場への対応を中心に、さまざまな案が議論されている。2月26日に行われた入試管理委員会では、通常通り入試は行う前提で、出張時、実施時のスタッフ体調管理と、受験日当日の受験生への対応が案として議論された。2月28日に議論の結果が感染防止対策として各教員に周知されたが、この後3月15日開催予定で追試を行うことが決定した。またこの時は並行して筆記試験の中止や札幌会場の中止などの意見が出されたが、最終的には感染防止に気を付けながら中期試験は通常どおり行われた。この判断時の理由としては、直前の中止は受験生の混乱が生じる、北海道当局への問い合わせ結果などを踏まえている。

現在令和2年度の入試シーズンの前に、文部科学省より、今年度の入試および共通テストの実施基本要項が示された。受験の公平性を担保することと、受験生、スタッフの安全性の確保を前提として、今年度入試をどう実施していくか検討を始めている。

参考文献

- 1) 朝日新聞データベース聞蔵Ⅱによると、朝日新聞が新型コロナウイルスの中国での流行を最初に伝えたのは、1月9日夕刊1面「武漢肺炎、新型コロナウイルス検出」である。
1月16日夕刊社会面「日本国内で感染初確認（渡航者）」との記事。
1月27日朝刊1面「政府チャーター機の派遣が決まり、国内でもホテルのキャンセルなどが相次ぐ」。
1月29日朝刊1面「確認された中で渡航歴のない初の国内感染者が報告」。
2月4日朝刊社会面「クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」初報」
- 2) 国立感染症研究所 感染症情報センター、「インフルエンザ・パンデミックに関するQ & A 2. 過去におこったインフルエンザ・パンデミックにはどのようなものがありますか？」(<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/pandemic/pQA2006ver02.pdf>, 2020-06-22 確認) によるとスペイン風邪流行は1918年～1919年とされている。
- 3) 文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室、「新型コロナウイルスに感染した場合等の受験生への配慮について（依頼）」(https://www.mext.go.jp/content/20200204-mxt_kouhou01-000003979_6.pdf, 2020-06-22 確認)
- 4) 「WHO、緊急事態宣言 新型コロナウイルス」朝日新聞、2020年2月1日1面
- 5) 「受験生、新型肺炎から守れ 大学、消毒液やマスクの備え強化 【名古屋】」朝日新聞、2020年2月2日、名古屋本社社会1面。「新型肺炎、受験シーズン直撃 対策乗り出す大学、あの手この手 【大阪】」朝日新聞、2020年2月2日、大阪本社社会1面。
- 6) 「新型肺炎に関する帰国者・接触者の相談を受け付け / 福井県」朝日新聞2月8日福井県地方版。「新型肺炎の症状、相談窓口を設置 県が6カ所 / 石川県」朝日新聞2月8日石川県版。等
- 7) 「新型コロナ感染者、岐大が受験認めず 追試など特別措置なし / 岐阜県」朝日新聞2月20日岐阜県版。
- 8) 「警戒しながら大一番 都立高入試 新型肺炎」朝日新聞2月21日夕刊社会面
- 9) 「入試、新型肺炎対策急ぐ 宇大、受験認めぬ方針 感染者、追試実施せず / 栃木県」朝日新聞2月21日栃木県版。
- 10) 「国公立大2次試験、どう対応? 北大、書類で合否判定も 新型肺炎 / 北海道」朝日新聞2月21日北海道版。

新型コロナウイルス感染症に伴う本学の動き

日 付	都留文科大学の動き	国の動き
令和 2 年 2 月 27 日		首相が全国小中学校などの一斉休講を要請
令和 2 年 3 月 13 日		新型コロナ対策の改正措置法が成立
令和 2 年 3 月 19 日	卒業式中止	
令和 2 年 3 月 26 日	学長が学生に向け 4 / 1 から 2 週間の経過観察期間として自宅待機を要請	
令和 2 年 4 月 1 日	新型コロナウイルス感染症等対策本部設置	首相が布マスク全戸配布を表明
令和 2 年 4 月 3 日	入学式中止 学生に向け学長メッセージ動画配信	
令和 2 年 4 月 5 日 (～ 7 日)	全学オリエンテーション中止	
令和 2 年 4 月 7 日		東京など 7 都道府県を対象に緊急事態宣言
令和 2 年 4 月 8 日	大学 HP にて学長からのメッセージ配信～東京等からの通学・通勤及び前期授業についての方針～ 前期授業開始を延期	
令和 2 年 4 月 16 日	学生・保護者に向け学長メッセージ動画配信	首相が減収世帯 30 万円給付から一律 10 万円給付への方針転換を表明 緊急事態宣言を全国に拡大
令和 2 年 4 月 18 日	健康診断延期（1 年生対象） 富士急行株式会社からマスク寄贈	
令和 2 年 4 月 20 日	緊急事態宣言を受けて、学生の大学施設への立ち入りを禁止 4 月 22 日から 5 月 6 日まで遠隔授業のみ実施を決定	
令和 2 年 4 月 22 日	遠隔授業を開始（5 月 6 日まで）し、PC 教室のみ使用制限を解除（申請制）	
令和 2 年 4 月 28 日	遠隔授業のみ実施期間を 5 月 7 日から 5 月末日まで延長決定 遠隔授業延長に伴い副学長（学生・教育担当）メッセージ発信	
令和 2 年 5 月 13 日	NPO 法人ガイアから次亜塩素酸水寄贈	
令和 2 年 5 月 14 日	緊急事態宣言解除を受けて、感染予防対策の整備を進めたうえで学内施設の利用制限を順次解除していくこととした	総額 25 兆円の第 1 次補正予算成立 39 県で緊急事態宣言解除
令和 2 年 5 月 19 日	「学びの継続」のための「学生支援緊急給付金」 学生に申請方法等周知（学内メ切 6 月 10 日）	「学びの継続」のための「学生支援緊急給付金」の実施が閣議決定され、大学等へ協力依頼
令和 2 年 5 月 20 日	6 月以降も前期については各科目で遠隔授業を続行することなどの方針を示し、遠隔授業受講のための教室利用を一部開始 英文学科卒業生大城早紀様からマスク寄贈（500 枚）	

日 付	都留文科大学の動き	国の動き
令和 2 年 5 月 21 日		大阪、京都、兵庫 3 府県で緊急事態宣言解除
令和 2 年 5 月 25 日	学生食堂・コミュニケーションホール営業開始	北海道、千葉、埼玉、東京、神奈川 5 都道府県で緊急事態宣言解除
令和 2 年 5 月 26 日	都留市からマスク寄贈（学生一人あたり 1 箱 50 枚） 都留文科大学後援会から布マスク寄贈（学生一人あたり 2 枚）	
令和 2 年 6 月 1 日	中央コンピューターサービス株式会社からマスク寄贈	
令和 2 年 6 月 10 日	有限会社宝観光バスからハンドジェル寄贈	
令和 2 年 6 月 11 日	新入生のサポートと在校生のアルバイト確保策として「新入生サポーター制度」を、遠隔授業を実施する教員のサポートとして「授業支援アシスタント制度」を開始	
令和 2 年 6 月 12 日		総額 31 兆円の第 2 次補正予算成立 予備費は異例の 10 兆円
令和 2 年 6 月 15 日	部・サークル活動再開に向け活動計画表の受付開始	
令和 2 年 6 月 16 日	学内サイトのコロナに関する情報を集約するため、公式ホームページにコロナ特設ページを開設	
令和 2 年 6 月 17 日	演習、実技、実験などを伴う一部の科目について対面授業開始 同時に、学習スペースとして利用可能な教室を増やした（3号館全教室・5号館2階各教室使用制限解除） 事務局窓口業務制限解除	
令和 2 年 6 月 19 日	「学びの継続」のための「学生支援緊急給付金」第一次推薦者リストを学生支援機構へ提出	



5 月 26 日 都留市からマスク寄贈



大学後援会から寄贈された布マスク



学外研究を終えて

国文学科教授 野口 哲也



令和元年度の1年間、国文学研究資料館に外来研究員として在籍させていただき、主に明治時代における文学的表現の形成や展開について、その実態や背景を明らかにするための研究に取り組みました。国文研は立川市にある大学共同利用機関で、貴重な古典籍や絵画資料、日本文学に関する研究書や学術雑誌を豊富に所蔵している研究施設です。学外研究の機会が与えられそうだと分かった時には、たとえば海外に身を置いて新しい刺激を得たいという思いもありましたが、家族（育児）の事情も考慮して受入先の希望を定めたのは私にとって正解でした。1年や2年ではとても踏査できないような資料群の待つ書庫に入って一日を過ごす時間は、学生・院生時代に戻ったような、というより、かつての私はそんなに真面目ではなかっただけに、この上なく贅沢なことだと、改めて感じられたものでした。私の専門的な研究対象は泉鏡花を中心とした明治～大正時代の近代文学ですが、特に鏡花という作家は江戸時代の読本や草双紙、またそれ以前の伝承といった古典文学の影響が強く、近年では挿絵や装幀も含めた書物としてのトータルな分析という視点も定着しつつあるので、この1年で様々な文献資料に触れて基盤的な知見を充実させることができました。

その他にこの1年間で、幕末から明治期にかけて造型芸術の分野で「写実」をめぐる思潮がどのように形

成されていったのかというテーマにも着手しました。文学でも絵画でも彫刻でも、この時期には西洋の写実的な理念や方法を受容して芸術の近代化が図られたわけですが、その際に特異なジャンルとして注目されるのが幕末の生人形（いきになぎょう）です。主に見世物や祭礼で用いられた、文字どおり生き写しの造形ですが、後に高村光太郎が彫刻とは全く異なる皮相（外面的）で不気味なりアリズムだとして芸術の名に値しないと切り捨てたのに対し、父の高村光雲はその表現に強く惹かれていたのも興味深いですし、見世物や祭礼が廃れてからは医学教育用の人体模型や百貨店のマネキン製作にフィールドを移していった消長も文化史的に面白く感じられます。上に掲げた写真は学外研究中の思い出の一つですが、群馬県の桐生市で行われている祇園祭では今でも生人形を戴いた鉾が巡行しています。桐生は織物産業で「西の西陣」と並んで大変に繁栄した地ですが、特に昨年度は明治期の名人と言われた松本喜三郎が明治8年に制作した「素戔鳴尊（スサノオノミコト）」が12年ぶりに用いられた年（例年はレプリカ）であったので、この機会に2度にわたって足を運んで見学し、関係者からも話を聞くことができました。当時お宝鑑定のTV番組でも紹介されて話題になったのですが、美術資料・民俗資料として展示されているものを鑑賞するのとは違った視点でまさに仰ぎ見ることができたのは大きな収穫でした。生人形の迫真的な写実表現は泉鏡花の幻想性や神秘性と一見対照的ではあるのですが、日本の近代におけるリアリティの多面性といった観点から、今後も研究を広げ深めていきたいと考えています。

最後に、研究に専念できる貴重な機会を与えてくださった本学関係者の皆さまに、深く感謝申し上げます。



自己省察のための貴重な一年

文学部英文学科 教授 三浦 幸子



まず初めに、多忙で人不足にもかかわらず私の学外研究を助めてくださった英文学科の皆様、大学の関係部署の方々、そしてゼミの学生たちに感謝の意を表します。

2019年4月から2020年3月末までの1年間、学外研究に行かせていただきました。主な研究場所となったのは、ハワイパシフィック大学応用言語学部で、滞在期間は6月から7月、9月から11月の合計5ヵ月でした。家庭の事情もあり、4、5月は日本に滞在しながらの渡米準備と、これまでは時間的に参加が難しかった国内外の英語教育関係のワークショップに短期で参加し、英語教育の中に21世紀型教育の要素を入れ込んでいくことを課題にして学ぶことができ、たいへん有意義でした。

ハワイパシフィック大学 (HPU) の Hanh thi Nguyen 先生に2013年夏にハワイ大学での講座に参加した際にお会いし、今回 HPU で客員研究員として受け入れていただきました。Nguyen 先生は、応用言語学、特に、学習者及び教師の相互交流能力 (interactional competence) の発達に関する研究が専門です。社会文

化理論の観点から会話分析を手法とする研究方法についてはもちろんですが、先生の学部および大学院の授業を聴講させていただけたことで、授業に関しての自己省察にもつながりました。英語教育また応用言語学の分野において学生たちの主体的・自律的学びを教師がどのように支援していけるかについて考える機会が多くあり、帰任後の自分の授業への示唆となりました。個人的研究に関しては、Nguyen 先生の研究論文に触発されて、日本での高校授業におけるデータ収集を行った「教師・生徒間のラポール (Rapport) の構築」に関する内容をまとめて、HPU での AL (Applied Linguistics) Talks として発表する機会を得て、先生方や学生たちからフィードバックをいただいたこともたいへん有難かったです。また、地域支援活動の一環として ESL のクラスで、担当の先生の助手をさせていただき、毎回、題材や活動、受講者とのインタラクションについて担当の先生と討議ができたのも自分の授業と研究を振り返る場となりました。

途中、8月には一時帰国し、他大学での講演会のため来日された

Nguyen 先生のお手伝いをし、新学習指導要領についても英語で説明しなければならないことにより、より咀嚼でき、具体的な解釈に結びつけられたと感じました。11月後半に帰国後は、以前から関わっている中学校検定教科書と高等学校検定教科書の執筆に専念しながら、地元の小・中・高等学校での英語授業を参観し、教師の声かけにより生徒のパフォーマンスがどのように向上するかを観察できたことが今後の自分の研究にとって大きな収穫でした。3月初旬には、検定教科書編集で関わっている出版社の勧めで、セブ島での語学学校の視察をしました。特別研修として、英語教育に関わる現地の大学教授2名との意見交換や高校での授業参観と討議、模擬授業の実施など充実した機会を得て1年間の総括となりました。



国語教育学ゼミ

教授 野中 潤

文学部 国文学科

国語教育学ゼミ、と聞いてみなさんはどんなことを思い浮かべますか？

教育系の勉強？国語の教員志望向けのゼミ？実は、それだけではありません。国語教育学ゼミでは、国語教育を新たな観点から展開し、考えています。そこで、私たちのゼミについてもっと知ってもらうために、活動の一部をご紹介します。

まず当ゼミでは、ICTを導入した新たな国語教育を中心に研究しています。ICTとは、通信技術を使った双方向型コミュニケーションのシステムを指します。中でも主に取り扱うのは、すっかりお馴染みになったZoomをはじめ、ロイロノート（授業支援アプリ）、G Suite等学校現場で活用されるICTツールです。そして、私たちのゼミ活動においてもこれらを積極的に取り入れ、実用的な学びを得ています。他にも、Edcampやブレもぎ！等、学外との教育系イベントに参加したりゼミ生自らが主催したりしており、そこでのインタラクティブな学習が可能であるのも特徴です。

さらに昨今、教育の根本を再考するきっかけとなった新型コロナウイルスの影響下でも、国語教育学ゼミならではの考え方、活動内容が活きています。先に挙げたICTツールも当ゼミでは普段から活用しているため、オンライン授業へスムーズに移行できました。加えて、ゼミの時間以外にもゼミ生同士の交流の場を作ったり、オンライン新歓コンパを行ったりと、まだ直接会ったことのないゼミ生が多い中でも円滑なコミュニケーションを重ねています。また、毎年恒例の夏合宿や模擬授業もオンライン上で開催する試みが提起

されている等、ゼミ活動に充実して取り組んでいます。

私たちゼミ生は、コロナ禍を逆手に取りつつ、当ゼミ独自の視点から国語教育とICTの可能性について身をもって考察を深めています。コロナ情勢によってふたつ

の関係がどのように変容するのか。ICT教育研究のパイオニアとなれるよう、国語教育の展望をゼミ生みんなで考えていきたいと思っています。



オンラインホワイトボードを使った夏合宿の企画案ブレスト大会の様子



3年生のオンラインゼミの様子



ゼミ生が作成したゼミサイトも是非ご覧ください

言語・文化ゼミ

文学部 英文学科

教授 Hywel Evans

I am currently conducting two seminars, one for third year students (言語文化・第1演習Ⅰ・Ⅱ) and one for fourth year students (言語文化・第2演習Ⅰ・Ⅱ). This year, we have been doing everything online, but there have not been any significant changes in the way we do things. I usually get about fifteen students signing up for each seminar. My own specialization is theoretical linguistics, a comparative approach to generative and unification grammars. However, I certainly do not expect many students to be interested in that particular specialization! On the whole, we deal with topics in the general areas of language, culture, and education. Early on, I encourage students to decide an area of interest and determine whether it will be possible to put together a reasonable graduate thesis in English. I try to offer guidance and references. My own belief is that the most important thing is for students to



express their own opinion, in their own words, on a subject of genuine interest. As such, I am completely open to ideas from a very wide range of fields. For example, while some students may be explaining phenomena in terms of Chomskyan linguistic theory, others may be explaining the same phenomena with reference to sociocultural theory.

Students are very polite, so this never seems to lead to any bad feeling or hostility. Generally speaking, we have a great time in class trying out different ideas. It is a great joy to me to have the opportunity to work with stimulating young people. Welcome to anyone who is interested.

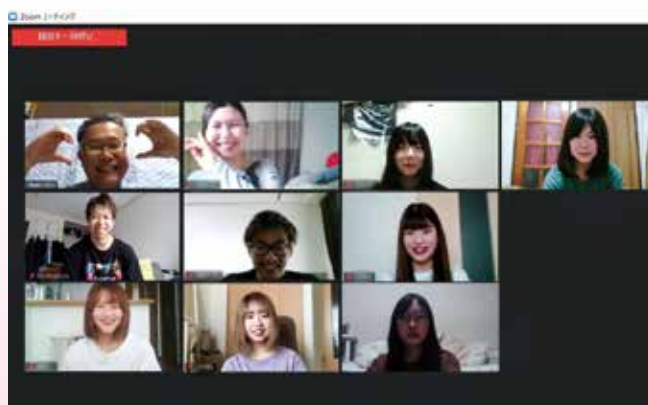
文学・文化第一演習ゼミ

文学部 英文学科

儀部直樹

文学と死生観

ゼミの背景知識として経営心理学者・飯田史彦氏著の『生きがいの創造』等やアメリカの精神科医の研究書を読みます。これらの書では臨死体験者の膨大な数の証言を通して明かされていく「死後生仮説」や、退行催眠(前世療法)によって証明されていく「生まれ変わり(輪廻転生)仮説」が医学的な根拠をもとに示されています。これらの示された事実や概念を、人生を前向きに生きるための思考(ツール)として活用するのが飯田氏や道德教育学者の吉田武男氏のすすめるスピリチュアリティ教育です。偉大な宇宙意思との繋がり(それを「神様」「大霊」との繋がりと呼んでもよいでしょう)、永遠の生命(魂)の存在、奥深い人生の仕組み等、スピリチュアルな概念を前提とする人間観・宇宙観を、人生のあらゆる事象に価値を見出すための思考法として活用しながら、勇気と希望と使命感に満ちた人生へと導くのがこの教育の精神ですが、この精神は文学探究にも生かれます。人間の魂は肉体の



3年生のオンラインゼミの様子

「死」によって消滅するのではなく死とは体を離れて生きることであり、我々の魂は中間生で光の指導者のもとソウルメイトと一緒に再生の時間を過ごします。それは愛を学び成長するための計画書「人生の問題集」を作るためです。その後我々はその計画を実行するためにこの世に何度も生まれ変わります。この仮説・視点で登場人物の死を考えると、その死からその人生の真の意味を見出せます。「死」とは終わりではなく新たな人生の始まり、という

人生観・死生観で文学作品を読みます。ゼミで扱うアメリカの小説家ミッチ・アルボム(1958-)の作品『天国の五人』や『天国からの電話』や『もう一日』(これらは死や臨死体験を通して「死後の世界」「生まれ変わりの示唆」を描いたフィクション)、『モリー先生との火曜日』(アルボムの恩師でALSに侵されたモリー先生についてのノンフィクション)は、題材としてゼミのテーマにぴったりです。

文化人類学・日本民俗学ゼミ

文学部 比較文化学科

教授 山本芳美

ゼミ生には、文化人類学や日本民俗学の知見を活かして各地域の民俗や地域史を掘り起こしてもらいたいと思っています。ただし、ダイエットや美容整形などを含めた授業「身体論」を担当している関係で、化粧や装いに興味がある学生も集まってきます。現実的には、化粧という行為の言語化が難しいこともあって、歴代のゼミ生の95%が現代日本の文化現象についての卒論を書きます。現地訪問など何らかの調査をするのが約1割の学生。約半数の学生が装い関連のテーマを選び、2割ほどの学生が出身地の産業や町おこしなどを取り上げます。

ここ数年、3年の前期は加藤秀俊『取材学』（1975年、中央公論新社）を読んでいます。ゼミ中は



国立歴史民俗博物館にて

学生の疑問に答えて、図書館での資料調査や取材のコツなどを解説しています。学生たちは夏休み直前には取材申し込みの手紙と研究計画書を準備し、実際に夏休み中に申し込んだインタビュー先に行きます。10月にその成果をゼミで発表します。意見を踏まえて、資料を収集してゼミ論（1万2000字程度）を後期終了後に提

出します。

今年はcovid-19の影響で、ゼミは遠隔授業です。出席率が非常に高く、質問や意見も活発に出て、学生との距離が近くなったように感じます。恒例の国立歴史民俗博物館の見学やインタビュー実習は難しくなったものの、調査の準備作業、技法などを学生たちが身につけることを期待しています。

比較社会学ゼミ

文学部 比較文化学科

准教授 山口博史

新型コロナウイルス感染症がなければ、演習の受講者にはEメール等で連絡を取り、授業時間に顔合わせをして演習を進めていくのがよくあるパターンです。しかしながら、今年それはできない状況でした。受講者が決まった段階で一人一人に連絡を取り、通信環境について教えてもらいました。同時双方向の通話は可能だという心算をこの時点で得ました。行動力のある学生さんが中心になりLINEグループをあっという間に作ってくれました。これには驚きました。互いに知らなくとも、友人の友人というつてをたどってくれたのではないのでしょうか。

最初は親睦とテストを兼ねてLINEでのグループ通話を何度か行ないました。その後、Microsoft Teamsに場を移行し、文献購読と課題の提出（これはWebClass）とそれをふまえたMicrosoft Teamsでのディスカッ



静かな対話

ションを軸に演習を進めています。演習では、多文化社会について考えるため、宮島喬先生の『多文化であることとは』（岩波書店刊）をテキストに用いています。発言のタイミングなど、けっこう難しいこともあります。鋭い意見も飛び出します。

コロナ禍でいずこも似たような状況かと思いますが、期せずして情報技術を活用しながら運営しています。私自身この運営方

法から学んだこともあります。大きなポイントは互いに対面するわけではないため、コミュニケーションの回路を増やすことでした。そのため、添削を以前にもまして綿密に行なうようにしています。オンラインでの音声対話と文字をもとにした静かな対話の大切さを感じるところです。大学らしい演習科目のひとつといえるのではないかな、と思います。

講師 佐々木南実

2017年度に新設された国際教育学科は2020年にいよいよ完成年度を迎え、個性あふれる7つのゼミ（探究セミナー）では3年生、そして4年生によるさまざまな学びが行われています。今回ご紹介する佐々木ゼミは、昨年3名のメンバーでスタートしました。国際バカロレアプログラム（International Baccalaureate、以下IB）を中心とした21世紀教育に焦点を当てていますが、卒業論文の研究テーマは三者三様 - 概念理解を中心とした国語科の取り組み、IB校におけるSDGs教育、バスケットボール・コーチの声かけの自己肯定感への影響について、それぞれが探究を進めています。

多様な教育理論をグローバルな規模で学校現場の実践に適用させているIBプログラムですが、まだまだ日本では馴染みの薄い、新しい研究分野です。理論から実践へと学生たちのマインドを繋いで行くためには、IB認定校（IB

World School）への訪問、見学が重要な役割を果たします。そこで春休みには、ゼミ生3名に別のゼミからの学生も加わり、関西のIB校を巡る旅に出ました。百聞は一見に如かず。21世紀のグローバル教育に舵を切った一条校（公立、私立）、IB教育のベテランで

あるインターナショナル・スクールなどをしっかりと見学しました。ふだん書物で学んでいる教育理論が、中学生や高校生の日常の中で命を吹き込まれて行く様子を目の当たりにし、未来の教育者としての自覚を新たにしてくれたことと思っています。



神戸 Canadian Academy にて



図工・美術教室

教養学部 学校教育学科

教授 鳥原正敏

図工・美術教室は、実技制作を通して図画工作の指導に必要な造形の基礎を学ぶとともに、図工・美術の視点から小学校の活動や発達、教科観について考え、理解を深めることを目標にしています。更に、“ものづくり(造形)”を通して現代社会で求められる複雑な能力を身につけながら、未来の社会で求められる資質・能力について考えます。

2年生では、図画工作の指導に必要な知識を体験的に学びながら、小学校や図画工作のもつ意味、可能性について考え始めます。3年生では「平面造形ゼミ」「立体造形ゼミ」に分かれ、それぞれの興味・関心をもとに制作します。また、小学校などの教育現場でワークショップを企画・運営しながら考えを深め、探求するための基礎を築きます。更に図画工作と中学美術のつながりにも目を向けます。4年生では、様々な体験を足場に、興味・関心のあることについてディスカッションをおこな



「テデカンガエル

<https://www.youtube.com/watch?v=UDalugERt94>

い、考え、探求します。そして、自分なりの考えを持つことを目指し、卒業論文を執筆します。その他では、ICTを活用した“ものづくり”のための空間「DIGITAL ずこうしつ」を運営しています。

図工・美術教室には、ものづくりに興味・関心のある様々な学生や教

員が、学科や学年、系を超えて集まります。授業を含めてすべての活動がオープンであること、お互いに影響しあいながら成長することを大切に考えています。図工・美術教室の活動を紹介する動画があります。是非、ご高覧ください。

比較教育学ゼミ

教養学部 学校教育学科

准教授 瓦林亜希子

上記比較教育学ゼミに所属している学校教育学科4年の泉琉己です。私のゼミでは、これまで学内の週一回のゼミ活動に加え、日本作文の会やフレネ教育研究会の全国大会に参加したり、実際にお茶の水女子大学附属小学校やきのくに子どもの村学園に学校見学に行ったり、学外での活動も大切にしてきました。また、今年2月から3月にかけて、指導教員の瓦林先生が研究されているフレネ教育を実際に見学するために、南フランスのヴァンスにあるフレネ学校にも何人かのゼミメンバーと訪れました。北フランスのナンシーでは、ロレーヌ大学でフレネ教育についての講義を受けたり、フランスの大学生と交流もできました。普段のゼミでは、学外での自分たちの活動についてレポートをして議論したり、自分たちの教育観や子ども観を深めていきました。その中で、私たちは「主体性」を育む教育方法の歴史や思想

について研究しています。

私自身はこの春の研修旅行の際、フランスの言葉が分からない状態で行って大丈夫なのだろうか、という不安がありました。それでも、瓦林先生の通訳で何とか子どもたちの会話を理解出来ました。しかし、言葉が分からなかった反面、教員によるジェスチャーや教具の提示によって変化する子どもの反応、表情が如実

に伝わりました。私は「言葉による指導」が何よりも大切であると思っていたため、今回のフレネ学校での学びは大きかったです。子どもの主体性を引き出し育み支援していく方法は様々です。これからも、自分自身の視野を広げるという意味でも、現場での実践を大切にしながらゼミでさらに学んでいきたいと思っています。



フランス研修旅行写真▲
◀瓦林ゼミ4年メンバー写真 (ロレーヌ大の学生さん先生方と)

環境社会学ゼミ

教養学部 地域社会学科

教授 神長 唯

このゼミは地域社会学科「環境社会コース」を構成する4ゼミの1つです。環境社会学ゼミ自体は社会学科の頃から長らく存在しており、2018年の本学移籍以降、引き継いだ2学年の卒業生を送り出した所です。過渡期の今、社会学科環境・コミュニティ創造専攻の神長ゼミ一期生(現4年生)にはゼミのスローガンを考案してもらいました。「つなぐ・伝える・作り出す」(＝未来へ、地域と「つなぐ」・「伝える」、そして過去から未来を「作り出す」)に込めたコンセプトは地域社会学科で新たに始まるゼミに「覚書」としてこのたび、正式に引き継がれました。地域社会学科の初ゼミ生(現3年生)には同コンセプトを行動に結びつけられるよう、日々心がけることが約束事です。

ゼミでは「四日市公害が地域社会に与えた諸影響」を題材に、公害・環境問題や社会構造について学びを深めます。四日市公害に関する文献の輪読だけでなく、被害者・加害者



ゆるキャラ「こにゅうどうくん」に遭遇(「四日市公害と環境未来館」)

のまなざしを疑似体験するロールプレイや、KJ法を用いた論点整理にも挑戦します。ゼミ生が最近気になった時事問題のコピーを持参し、アイスブレイク代わりに話し合いも行います。2019年夏は念願の現地調査を三重県四日市市で実施しました。サブゼミを開き、各自が下調べを分担して臨みました。開館5周年を迎える公害資料館「四日市公害と環境未来館」に何度も足を運び、さらに四日市港や被害地域を実際に歩いて回る3泊4日のフィールドワークはハー

ドスケジュールながらゼミ生に大変好評でした。「生の声を聞く」ことを大事にしつつ、公害や環境問題の経験・教訓を今に活かし伝え続けることを考えるきっかけとなったようです。

毎年11月に「環境社会学ゼミ首都圏インカレ報告会」という8大学合同卒業論文中間報告会に4年生は強制参加し、他大学教員・学生を前に卒論について発表します(3年生は傍聴参加)。2月の口頭試問本番を前に、良い予行練習となっています。

自治体経営論ゼミ

教養学部 地域社会学科

准教授 鈴木健大

私のゼミでは、学生自らが地域社会の課題を捉え、その解決策を地域住民や自治体、企業等と連携して実践活動につなげ、これからの地域社会や地方自治のあり方を考察することを目的としています。

私は本学に着任して今年3年目になり、今年度初めてゼミ1期生となる3年生11名を迎えました。地域社会学科では、2年次に「実践科目」といったゼミのように学ぶ半期の科目があり、大半は「実践科目」からのメンバーです。

現在本ゼミでは、地方自治・地域活性化に関する政策研究のほか、都留市、上野原市、道志村、山梨県、財務省、企業、他大学等と連携した、複数の地域活性化のプロジェクトを並行して進めています。

都留市では一昨年度から、谷村町駅舎を拠点にした地域づくり「ぶらっとはうす」をオープンゼミとして開始しました。今年度は地元鉄道会社及び沿線自治体と連携して、ウイズコロナ時



道志村の特産品クレソンを使ったデザートの試作検討

代における新しい観光を生むプロジェクトをスタートしました。

また、県・道志村と連携し、昨年度から道志村で地域再生のプロジェクトが始まりました。道志村では、文献研究や事例研究のほか、現地での調査や職業体験等も踏まえ自治体に政策提案を行い、関係人口の構築を目指してライダーとの村内清掃活動や情報発信等の実践活動に繋げています。今年度は県内食品会社と連携して、村の特産品を使ったスイーツ開発の企画も始

まります。

今年度はさらに、新たに県・上野原市と連携し、旧秋山村の地域再生プロジェクトも始まりました。

プロジェクトには、私も学生たちと一緒にあってあたっています。学生たちには、大勢の方々の御尽力でこのような学びの機会をいただいていることに感謝の気持ちを常に持ってほしい。そして、社会に出て研鑽を重ね、地域の次代を担うリーダーとして活躍してもらいたいと願っています。

ぜひお寄せください。

本学の今回の就職状況調査のもう一つの特徴は、卒業生 794 名全員についての報告が寄せられたことです。卒業生の皆さんの自覚的な気持ちを反映しているという点で、こうしたことも充実した就職活動と無関係ではありません。全員の行先を見守るべく努力した教職員の方々を含め、皆さんのご協力に感謝します。

表 1 令和元年度の就職関係データ

	元年度
卒業者数 A	794
就職希望者数 B	704
就職決定者数 C	688
大学院等進学者数 D	28
就職率 C/B × 100	97.7
進路決定率 (C + D) / A × 100	90.2
就職決定者 内訳	
企業	397
教員	190
公務員	101
合計	688

表 2 令和 2 年 3 月卒業者（前期卒を含む）の就職先別人数

A	教員	小学校	125
		中学校	30
		高等学校	21
		特別支援学校	4
		私立学校	10
		教員合計	190

B	公務員	国家公務員	11
		地方公務員	90
		公務員合計	101

C	民間企業	農業・鉱業	1
		建設業	9
		製造業	41
		電気・ガス熱供給業	4
		運輸・郵便業	17
		卸小売業	65
		金融保険業	36
		不動産業	9
		サービス業	149
		通信業	66
		合計	397

D	公立学校都道府県別採用数（臨採含む）	北海道・札幌市	2	長野県	4
		青森県	2	岐阜県	2
		岩手県	3	静岡県	9
		宮城県・仙台市	8	静岡市	3
		秋田県	2	浜松市	4
		山形県	5	愛知県	4
		福島県	4	三重県	3
		茨城県	1	京都府	1
		栃木県	2	大阪市	1
		群馬県	2	兵庫県	5
		埼玉県	5	鳥取県	2
		さいたま市	1	島根県	1
		千葉県・千葉市	9	岡山県・岡山市	4
		東京都	20	広島県・広島市	3
		神奈川県	4	徳島県	2
		横浜市	6	香川県	2
		川崎市	1	愛媛県	2
		新潟県	6	北九州市	1
		新潟市	2	長崎県	1
		富山県	5	熊本市	1
		石川県	3	宮崎県	1
		福井県	3	沖縄県	4
		山梨県	24	合計	180

有限会社湖南荘
六化学製果株式会社
【公立学校】
青森県教育委員会
福島県教育委員会
埼玉県教育委員会
千葉県教育委員会
東京都教育委員会
福井県教育委員会
山梨県教育委員会
長野県教育委員会
静岡県教育委員会
三重県教育委員会
大阪府教育委員会
兵庫県教育委員会
沖縄県教育委員会
【私立学校】
翔南中学校 高等学校
駿台甲府小学校・中学校・高等学校
【公務員】
航空管制官
入国警備官
東京 23 区清瀬一部事務組合
特別区（東京都 23 区役所・組合）
下田市役所
恵那市役所
甲府市役所
佐久市役所
八代市役所
飯山市役所
比較文化学科
【企業】
ANA（全日本空輸株式会社）
ANA テレマート株式会社
Earth Technology 株式会社
JAC Recruitment
ProGATE 株式会社
WDB ココ株式会社
アイ・ティ・エックス株式会社
アルファクラブ武蔵野株式会社
いつ和
エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社
サントリーパブリシティサービス株式会社
スガツネ工業株式会社
チェックフィールド株式会社
ツツイグループ
なるぼ堂
ハーゼスト株式会社
ハイアットセントリック 金沢
フェデラルエクスプレスジャパン
プラムハウス株式会社
フルハシ EPO 株式会社
ベース株式会社
マニライフ生命保険株式会社
ユナイテッド&コレクティブ株式会社
リタワークス株式会社
ルートイングループ（ROUTE INN HOTELS）
ワカの宿九菜
青木フルーツホールディングス株式会社

朝日システム株式会社
飯田信用金庫
伊藤忠ケミカルフロンティア株式会社
株式会社 ALL CONNECT
株式会社 Buyselltechnologies
株式会社 FUKUMIMI
株式会社 KICHIRI
株式会社 Minoris リソリューションズ
株式会社 NHC
株式会社 アーネストワン
株式会社 アイオス
株式会社 アイレップ
株式会社 アダムス医療
株式会社 あとらす二十一
株式会社 アバン
株式会社 アベックス
株式会社 アワジス
株式会社 アワビ銀行
株式会社 エスコム
株式会社 エフ・ディ・シー・フレンズ
株式会社 エポラブルアジア
株式会社 オール・エス・ティ
株式会社 オキナ
株式会社 カチタス
株式会社 キラヤ
株式会社 グローバル・リンク・マネジ
メント
株式会社 光・彩
株式会社 ウッドハウス
株式会社 ションステージ
株式会社 シグマックス
株式会社 シティコム
株式会社 ジャックアンドビーンズ
株式会社 ジョインフォース
株式会社 高岡銀行
株式会社 スープストロークーヨー
株式会社 セゾンファクトリー
株式会社 ティーズ
株式会社 デザイン
株式会社 東京エネクス
株式会社 トリドルホールディングス
株式会社 西松屋チェーン
株式会社 キラク
株式会社 野田塾
株式会社 ハニ銀行
株式会社 ハンコックタイヤジャパン
株式会社 ジョグモーター
株式会社 ベッセル
株式会社 ボンパドウル
株式会社 マーキュリー
株式会社 ミナベルホネン
株式会社 ミリアルゾートホテルズ
株式会社 物産コーポレーション
株式会社 薬王堂
株式会社 山梨中央銀行
株式会社 山本製作所
株式会社 ニュー
株式会社 夢テックノロジー
株式会社 リーン
川口測量設計
北日本放送株式会社
小林食品株式会社
三幸グループ（学校法人三幸学園／株式会社日本教育クリエイト）

静岡銀行
新光電気工業株式会社
信州ハム株式会社
住友生命保険相互会社
第一生命保険株式会社
大和証券株式会社（大和証券グループ）
多摩運送株式会社
地域医療機能推進機構
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
独立行政法人労働者健康安全機構
日月商事株式会社
日本金融通信社
日本航空株式会社
羽田空港サービス株式会社
古本買取通販ドットコム株式会社
中村エンジアリング株式会社
松山総合開発株式会社（ANA クラウンプラザホテル松山）
三井不動産リアルティ株式会社
三輪運輸株式会社
米田三越株式会社
【公務員】
国税専門官
埼玉県庁
香川県庁
岡山県庁
地方公務員関係共済組合職員共同
採用試験委員会
両館市役所
昭島市役所
立川市役所
西荻町役所
熱海市役所
四日市市役所
小矢部市役所
福島県警察本部

社会科学 現代社会専攻

【企業】
J A 新居浜市
イオンリテール株式会社
サンニ印刷
セコム山梨株式会社
ソレキア株式会社
株式会社 信用金庫
株式会社 HS 情報システムズ
株式会社 J R 東日本ステーション
サービス
株式会社 KC 情報
株式会社 MAXIS エデュケーション
株式会社 TTC
株式会社 アクトス
株式会社 エイチ・アイ・エス
株式会社 エイム
株式会社 エンヂョー
株式会社 クスリのサンロード
株式会社 清水銀行
株式会社 ティビシィ・スキヤット
株式会社 ヒュービシステム研究所
株式会社 平山
株式会社 平成建設
株式会社 ボジティブドリーム・バーソンス
株式会社 星野リゾート・マネジメント
株式会社 日本マキユーリー

株式会社 山梨中央銀行
株式会社 コーエム・システム
株式会社 ヨドバシカメラ
株式会社 ラネット
株式会社 早稲田アカデミー
住友不動産ヴィラフォンテータ株式会社
中部食品
東京海上日動火災保険株式会社
日本トーター株式会社
野村證券株式会社
平野電業
凡人社
明治安田生命
山崎金属株式会社
山梨交通株式会社
有限会社 コスモテニスカレッジ
【公立学校】
北海道教育委員会
山形県教育委員会
新潟県教育委員会
富山県教育委員会
山梨県教育委員会
岐阜県教育委員会
静岡県教育委員会
岡山県教育委員会
徳島県教育委員会
沖縄県教育委員会

【私立学校】
学校法人 KTC 学園 屋久島おおぞら
高等学校
公益財団法人海外子女教育振興財団
星橋グループ
【公務員】
横浜地方裁判所
国立大学法人 山梨大学
名古屋入国管理局
宮城県庁
栃木県庁
群馬県庁
山梨県庁
花巻市役所
郡山市役所
特別区（東京都 23 区役所・組合）
小田原市役所
敦賀市役所
上野原市役所
東部地域広域水道企業団
西荻町役所
富士見町役所
裾野市役所
沼津市役所
鈴鹿市役所
糸満青少年の家
千葉県警察
警視庁
愛知県警察本部

【社会科学】
環境コミュニケーション創造専攻
【企業】
MX モバリビング株式会社（丸紅グループ）/ 旧 NEC モバリビング
NPO 法人 エンツリー
アコム株式会社
イオンリテール株式会社
イトウデザイン
グランドハウス株式会社
ルートイングループ（ROUTE INN HOTELS）
一般社団法人 農山漁村文化協会
学校法人 埼玉医科大学
堅田漁業協同組合
株式会社 Sunny note
株式会社 TTC
株式会社 UR コミュニティ
株式会社 アルカ
株式会社 ウェルカム
株式会社 京三製作所
株式会社 ザイマックスインフォニスタ
株式会社 スカイトップ
株式会社 スズキビジネス
株式会社 トミヤコーポレーション
株式会社 スズキチェーン
株式会社 内藤製作所
株式会社 日本ネットワークサービス
株式会社 羽中自動車工業
株式会社 フレコフーズ
株式会社 ボジティブドリーム・バーソンス
株式会社 ミラプロ
株式会社 メガネスーパー
株式会社 ローソーン
山崎精工株式会社
住宅情報館株式会社
信州諏訪農協同組合（JA 信州諏訪）
税理士法人 AKJ パートナーズ
大正大学
大和情報サービス株式会社（大和ハウスグループ・商業施設デベロッパー）
日信工業株式会社
日本アスベクトコア株式会社
日本食研ホールディングス株式会社
日本年金機構
日本郵政グループ
日本郵便株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
富士信用金庫
古本買取通販ドットコム株式会社

【公立学校】
東京都教育委員会
静岡県教育委員会
長崎県教育委員会
【公務員】
国税専門官
北海道庁
北海道上野原市役所
山梨県庁
岐阜県庁
潮来市役所
日立市役所
太田市役所
所沢市役所
浦安市役所
大綱白里市
青梅市役所
金沢市役所
海陽町役所
山梨県警察本部



2019 年度「授業についての 学生アンケート」の結果から

学長補佐（評価担当）（兼 FD 委員会委員長） 樋口雄人

今年度（2020 年度）、本学の FD 委員会委員長を務めております地域社会学科教員の樋口です。本稿では、昨年度（2019 年度）に実施された「授業についての学生アンケート」の結果を総括し、若干のコメントをさせていただきます。

授業アンケートについて

「授業についての学生アンケート」は、本学における授業の内容の改善・向上を目的として、毎年度の前期末および後期末に授業時間の一部を割いて、受講生に質問項目に回答してもらう形で実施されています。この授業アンケートは、すべての授業担当者（専任・特任教員、非常勤講師）に必ず 1 科目以上実施するよう依頼しています。

授業アンケート実施率

表 1 は、授業アンケートの教員の

実施率を示したものです。ここ数年、専任・特任教員に関しては 90 % を超えており（対前年度比で 4 ポイント減となっているのは気になりますが）、非常勤講師の実施率も一貫して上昇傾向にあります。ただ、完全実施（100 %）が本来あるべき姿であり、もともと教員毎に（最低）1 科目と「分母」も小さいのですから、この数字は決して満足できるものではありません。FD 委員会と致しましては、授業アンケート実施率 100 % を目標として今後も授業担当教員に対する働きかけを続けると同時に、授業担当教員ひとり当たりのアンケート実施科目数を増やすことも検討したいと思います。

表 1

実施年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
専任・特任教員	94.6	96.0	96.4	92.4
非常勤講師	68.8	76.0	84.2	86.9

各アンケート項目の概観

それでは以下、表 2（前期）および表 3（後期）のアンケート結果を概観して参ります。履修者・回答者の数および項目毎の数値に差異はありますが、全体的に見て前・後期でほぼ同様の傾向を示しているようですので、通年での総括ということでご覧いただきたいと思います。

①授業を履修した理由

この項目に関しては、まず必修科目は科目の性質上「履修選択しない自由」がほぼ存在しないのですから、「必修科目だった」という理由を挙げた割合が高いのは当然のことです。複数回答可の設問ですので、大

表 2 2019 年度前期 全体集計結果表

項	設問文	全体平均	回答率					
			5	4	3	2	1	
B	あなた自身の授業への取り組みについて	セクション平均点	3.94	Yes		普通		No
1	あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。80%程度（3 回程度の欠席）を「普通」とし、5 段階で答えてください。	4.34	53.93	28.84	14.99	1.99	0.26	
2	事前にシラバスを読み、授業の目的、目標、内容を理解して臨みましたか。	3.87	34.01	30.01	28.84	3.21	3.93	
3	授業に出席したときは、授業に集中し、熱心に取り組みましたか。	4.18	45.00	31.20	21.20	1.93	0.67	
4	この授業について、予習あるいは復習をしましたか。十分に行ったを 5、全く行かなかったを 1 とし、5～1 の範囲で答えてください。	3.30	18.38	24.12	36.89	10.12	10.48	
5	授業の内容をよく理解できましたか。	4.02	37.01	33.85	24.40	3.62	1.12	
6	あなたは授業で理解できなかった点についてどう対処しましたか。（複数回答可）		授業中に先生に質問	授業終了時先生に質問	メールで先生に質問	友達・先輩に聞いた	図書館・WEB	先生の研究室を訪ねた
		11.52	9.48	0.59	53.43	29.91	0.29	10.16
7	上記 6 の「何もしていない」と回答した人だけ答えてください。なぜ何もしなかったのですか。（複数回答可）		調べ方がわからない	質問機会が不十分	質問するのがはばかしい	面倒だから	自分一人で解決	重要ではないから
		7.88	3.66	4.40	15.87	35.23	26.37	11.42
C	授業の進め方について	セクション平均点	4.23	Yes		普通		No
8	説明の仕方あるいは指示の仕方は、理解しやすかったですか。	4.24	51.59	25.79	18.48	2.96	1.18	
9	話し方（声の大きさや明瞭さなど）や板書は、わかりやすかったですか。	4.26	53.94	23.19	18.57	3.17	1.13	
10	プリント、ビデオ、教科書など教材の使い方は授業内容の理解を助けるものでしたか。	4.29	54.35	24.28	18.23	2.20	0.93	
11	学生の反応や理解度に応じた授業の進め方でしたか。	4.15	48.29	25.41	21.29	3.42	1.59	
D	授業環境について	セクション平均点		Yes		普通		No
12	クラスの学生数、教室の設備、備品などは適切な状態でしたか。	4.30	57.13	19.77	19.89	2.43	0.78	
E	授業内容について	セクション平均点	4.07	Yes		普通		No
13	授業内容はわかりやすく整理されていましたか。	4.28	52.73	26.07	18.15	2.15	0.90	
14	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。	4.26	52.53	25.83	18.15	2.33	1.16	
15	授業の内容・構成は、シラバスで書かれた目標に沿っていましたか。	4.23	49.25	26.80	22.39	1.02	0.55	
16	授業のレベル（難易度）は適切でしたか。難しすぎたを 5、易しすぎたを 1 とし、5～1 の範囲で答えてください。	3.49	14.41	24.42	57.62	2.77	0.78	
F	授業成果について	セクション平均点	4.29	Yes		普通		No
17	この授業を履修したことで、この分野に関する新しい知識や考え方、技能などを修得できましたか。	4.30	52.91	27.00	17.67	1.57	0.84	
18	この授業を履修したことで、ものの見方や興味・関心を広げることができましたか。	4.27	52.32	26.24	18.52	1.87	1.05	
19	総合的に考えて、この授業を履修して有意義であったと思いますか。	4.31	55.37	24.17	17.35	2.03	1.08	

学としては「シラバスを読んで興味を持った」「授業の分野に興味があった」などの積極的な理由による履修が増えるよう努める必要があります。その点で、アンケート結果から窺える現状には改善の余地が大いにあるように思います。「単位を取りやすいと思った」という率直な(?)回答の少なさが示している本学学生の真面目さに鑑みれば、学生たちの受講意欲に応えるためにも、われわれ教員は「よい授業と聞いていた」という回答がもっとももっと増えるよう努力しなければなりません。

②学生たちの授業への取り組み

上述した本学学生の真面目さは、授業出席の程度(項目 B.1)および授業時間中の取り組み(項目 B.3)での全体平均値の高さによって確認できますが、それと比べて授業時間外の予・復習(項目 B.4)の数値がかなり低くなっています。これは昨年度に限ったことではなく例年の傾向なのですが、この数値を高めるためには、受講生各自の学修への意識向上が求められると同時に、担当教員の側も、予・復習を具体的にどう

行っていくべきかを受講生たちに適切に伝え、彼らが予・復習を含めた学修全体を効果的に行っているかどうかを確認しつつ授業運営を進める必要があるように思います。

③授業の進め方・授業環境・授業内容

これらの項目は教員の授業運営に関するものですが、「5」の選択が多く全体的に数値が高めに出ているのは喜ばしい傾向です。われわれ授業を担当している教員は、このアンケート結果で満足することなく、授業運営の改善・向上および効率化等にいつそう努める必要があります(回答の際に学生が気を遣って手心を加えてくれているかもしれないことを忘れてはなりません)。他の項目と比べて数値が低めに出ている授業レベル(項目 E.16)については、受講生たちが「手ごたえ」を感じるような、もう少し高難度の「骨っぽい」授業を行なってもよいのかもしれません。

④授業成果

ここでも③と同様に高い数値とっていますが、それに教員の側が

驕ってはならないことは上述の通りです。これまでより授業内容の学術的なレベルを高め、なおかつこれらの項目(F.17-19)における全体平均値を維持できるよう、われわれ教員は努力する必要があります。

最後に

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大という非常事態をうけて、前期は遠隔授業という前例のない形態によって授業が開講されています。この授業アンケートも、教場でマークシート回答用紙を使ってという例年の形ではなく、少なくとも前期は例外的にオンラインで実施することに致しております。こうした事態への対応は喫緊の課題ではありますが、従来の授業のあり方を抜本的に見直す好機ともいえます。本学FD委員会はこうした授業環境の変化を踏まえた新たな授業評価のあり方そして授業改善に向けての方策を検討してゆく所存でございますので、受講生諸君そして関係各位におかれましては、そのためのご教示ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

表3 2019 年度後期 全体集計結果表

項	設問文		全体 平均	回答率						
				5	4	3	2	1		
B	あなた自身の授業への取り組みについて		セッション平均点	3.94	Yes		普通		No	
1	あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。80%程度(3回程度の欠席)を「普通」とし、5段階で答えてください。			4.20	44.90	33.30	19.24	2.23	0.33	
2	事前にシラバスを読み、授業の目的、目標、内容を理解して臨みましたか。			3.92	34.74	31.03	28.76	2.80	2.68	
3	授業に出席したときは、授業に集中し、熱心に取り組みましたか。			4.16	43.58	32.21	21.80	1.88	0.54	
4	この授業について、予習あるいは復習をしましたか。十分に行ったを5、全く行かなかったを1とし、5～1の範囲で答えてください。			3.35	19.70	23.53	37.93	9.78	9.06	
5	授業の内容をよく理解できましたか。			4.04	37.60	34.01	24.34	3.25	0.80	
6	あなたは授業で理解できなかった点についてどう対処しましたか。(複数回答可)		授業中に先生に質問	授業終了時先生に質問	メールで先生に質問	友達・先輩に聞いた	図書館・WEB	先生の研究室を訪ねた	何もしていない	
		13.90	9.79	0.96	53.10	30.51	0.41	7.81		
7	上記6の「何もしていない」と回答した人だけ答えてください。なぜ何もしなかったのですか。(複数回答可)		調べ方がわからない	質問機会が不十分	質問するのはいざしい	面倒だから	自分一人で解決	重要ではないから	その他	
		7.23	5.60	4.79	16.40	36.66	27.60	6.01		
C	授業の進め方について		セッション平均点	4.28	Yes		普通		No	
8	説明の仕方あるいは指示の仕方は、理解しやすかったですか。			4.27	51.76	27.35	17.81	2.26	0.83	
9	話し方(声の大きさや明瞭さなど)や板書は、わかりやすかったですか。			4.30	54.72	24.62	17.49	2.43	0.74	
10	プリント、ビデオ、教科書など教材の使い方は授業内容の理解を助けるものでしたか。			4.33	55.56	25.37	16.74	1.63	0.70	
11	学生の反応や理解度に応じた授業の進め方でしたか。			4.20	49.68	26.24	20.04	2.86	1.18	
D	授業環境について		セッション平均点		Yes		普通		No	
12	クラスの学生数、教室の設備、備品などは適切な状態でしたか。			4.26	55.39	20.29	20.55	2.56	1.21	
E	授業内容について		セッション平均点	4.10	Yes		普通		No	
13	授業内容はわかりやすく整理されていましたか。			4.31	53.44	27.09	17.04	1.87	0.56	
14	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。			4.30	53.39	26.71	17.08	2.00	0.82	
15	授業の内容・構成は、シラバスで書かれた目標に沿っていましたか。			4.27	50.78	26.64	21.31	0.91	0.35	
16	授業のレベル(難易度)は適切でしたか。難しすぎたを5、易しすぎたを1とし、5～1の範囲で答えてください。			3.52	15.14	25.28	56.64	2.42	0.52	
F	授業成果について		セッション平均点	4.33	Yes		普通		No	
17	この授業を履修したことで、この分野に関する新しい知識や考え方、技能などを修得できましたか。			4.33	53.88	27.66	16.54	1.22	0.70	
18	この授業を履修したことで、ものの見方や興味・関心を広げることができましたか。			4.31	53.63	26.60	17.42	1.60	0.75	
19	総合的に考えて、この授業を履修して有意義であったと思いますか。			4.34	56.35	24.88	16.26	1.59	0.92	

令和元年度 都留文科大学卒業証書・修了証配布式



令和2年3月19日(木)、杜の都うぐいすホールにて行われる予定であった、「令和元年度 都留文科大学卒業式」は、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、中止となりました。

卒業式に代わり、卒業証書・修了証書配布式が各学科教室に分かれ、時間を区切、人数を決めて行われ、802名(学部、専攻科、大学院を含む)がそれぞれの道へ、旅立ちました。

令和元年度
卒業生・
修了者数

文学部 初等教育学科 214名
国文学科 141名
英文学科 127名
社会学科
現代社会 100名
環境・コミュニティ専攻 71名
比較文化学科 141名

専攻科 大学院 文学専攻 2名
臨床教育実践学 1名
国文学専攻 1名
英語英米文学専攻 3名
社会学地域社会研究専攻 1名

令和2年度 入学試験状況

2020年度 推薦入学試験状況

学科名		受験者数	合格者数
文学部	国文学科	173	63
	英文学科	72	43
	比較文化学科	68	47
	比較文化学科(センター利用)	63	29
	国際教育学科	43	22
	国際バカロレア(IB)	2	0
教養学部	学校教育学科	192	101
	学校教育学科(センター利用)	103	26
	地域社会学科	130	71
	地域社会専攻(センター利用)	47	16
	地域社会学科(活動評価型推薦)	32	12

2020年度 編入試験状況

学科名		受験者数	合格者数
文学部	国文学科	11	6
	英文学科	7	2
	比較文化学科	5	3
教養学部	学校教育学科	本年度は募集なし	
	地域社会学科	10	2

2020年度 前期日程入学試験状況

学科名		受験者数	合格者数
文学部	国文学科	109	62
	英文学科	55	36
	比較文化学科	163	76
	国際教育学科	71	25
教養学部	学校教育学科	170	56
	地域社会学科	109	84

2020年度 中期日程入学試験状況

学科名		受験者数	合格者数
文学部	国文学科	283	96
	英文学科	172	93
	比較文化学科	248	95
	国際教育学科	51	19
教養学部	学校教育学科	217	67
	地域社会学科	141	68

令和元年度 学生表彰制度による表彰

課外活動において特に顕著な成績を挙げたと認められる学生や団体、また、社会活動において社会的に高い評価を受けたと認められる学生や団体に対応する学生表彰制度により、1名、と3団体が表彰されました。



合唱団

合唱団	第72回全日本合唱コンクール大学一般職場部門・大学コースの部において11年連続、金賞受賞
女子バレーボール部	第68回関東甲信越大学体育大会 優勝 秋季関東大学女子2部バレーボールリーグ戦優勝
女子バスケットボール部	山梨県社会人バスケットボールリーグ戦(女子) 優勝 皇后杯バスケットボール選手権山梨県予選 準優勝 関東女子バスケットリーグ戦3部10位 関東甲信越体育大会バスケットボール女子の部第3位
水野 凜	第64回文部科学大臣杯全国青年弁論大会 一般の部優秀賞



女子バレーボール部



水野 凜さん



女子バスケットボール部

成績優秀者表彰

毎年、6月に昨年度(令和元年度)、学内において優秀な成績を修めた学生を表彰する「成績優秀者表彰式」が行われますが、今年は、新型コロナウイルス拡大防止の為、表彰式は中止となりました。対象者81名には、平成26年度より創設された「成績優秀者奨学金」が給付されました。

文 学 部	初等教育学科(4年)	5名
	国文学科(2~4年)	15名
	英文学科(2~4年)	15名
	社会学科(4年)	5名
	比較文化学科(2~4年)	15名
	国際教育学科(2~4年)	6名
教養学部	学校教育学科(2~3年)	10名
	地域社会学科(2~3年)	10名



都留文科大学文学部有志による英語ミュージカル

The Wiz ～オズの魔法使い～

開催：2020年3月6日（金）・7日（土）

演出・英語指導：中原和樹

主催：都留文科大学文学部英文学科

2020年3月にコミュニケーションホールのアート・シアターで上演された英語ミュージカルは、私の英語学習意識を大きく変えた、前例のない挑戦的なプロジェクトでした。今回の公演では《The Wiz ～オズの魔法使い～》を上演しました。私が演じた物語の主人公のドロシーは、突然やってきた竜巻に巻き上げられ、オズの国へと連れていかれます。家に帰るために、偉大な魔法使いWizに会いに行く旅を彼女ははじめます。旅の途中で、知性を求めるカカシ、心を手に入れたいブリキ男、そして勇気が欲しいライオンに会い、ともにWizを探す冒険をする物語です。この物語では、自分にはないものを求める者との出会いと彼らとの友情、愛情が描かれています。こうして作品を振り返る時、私は、このプロジェクトもまるでドロシーの冒険のようだなと思わずにはいられません。

これまで、都留文科大学では、演劇を通じた英語教育として、英文学科有志によってつくられた演劇グループTsuru Drama Company

がシェイクスピア劇の公演を行っていました。また、2019年4月からは、英文学科の新カリキュラムの中で、English Through Dramaが開講されました。今回のプロジェクトは、昨年度12月から3月にかけて行われ、学科横断プロジェクトの一環として、英語や演劇に興味を持った学生たちが、学科を問わず参加しました。そのため、このプロジェクトに求めることや英語に対する意識も異なりました。このプロジェクトの魅力の一つは、公演はもちろん、稽古やミーティングも英語を使って、自分の意思を伝えることです。メンバーが互いに英語を使って意思を伝え、一人一人の言葉に耳を傾け、みんなの思いをのせた目標を考えました。こうした意思を伝えあう場の大切さを教えてくださったのは、演出家の中原和樹さんでした。和樹さんのご指導の中には、自分を見つめる時間があります。この時間が、私の中で苦手意識を持って遠ざけていた英語を、自分を表現する一つの方法として身近に感じるきっかけになりました。新型コロナウイルス拡大

防止のため、当初予定していた形での公演は残念ながらできませんでしたが、私たちのそれぞれの思いは作品の中で鮮やかに生きていました。

今回のプロジェクトでは、キャストはもちろん、運営や照明、音響を総勢20名の学生たちで行い、知恵を出し合いながら力を合わせて舞台を作り上げました。今後もプロジェクトメンバーを中心としたパフォーマンスや運営を続けていきたいと考えています。今回のミュージカルの成功は、今後の英語ミュージカルプロジェクトへの可能性を高めることになりました。新入生を迎え、新たな作品への気力も高まっています。そのためには、歌唱やダンス、演技等の技術面だけではなく、メンバーの募集、そして広報活動にも力を入れる必要があります。始まったばかりのこのプロジェクトですが、一つの作品を完遂することができた、パワフルで思いうるやりにあふれたメンバーが集まっています。これからも、応援してくださる方々への感謝を込めた、心あふれる作品作りに励んでいきます。

（文学部比較文化学科2年 小山萌絵）



演出・英語指導

中原和樹（なかはら・かずき）

劇団もんもちプロジェクト主催・演出。日本演出者協会会員。山梨県民文化ホールアーティストアドバイザー。演出家、劇作家、舞台監督、アクティングコーチとして様々な顔を持ち、いろいろな角度から演劇と向き合い、芸術のジャンルを超えた舞台作品制作を目指している。

人事異動

教員

【採用】

町 田 宗 鳳（文学部国際教育学科特任教授）
 滝 井 章（教養学部学校教育学科特任教授）
 桑 野 淳 一（教養学部地域社会学科特任教授）
 谷 合 弘 行（教養学部学校教育学科特任准教授）

【退職】

分 田 順 子（文学部比較文化学科教授）
 Hamish Gillis（文学部英文学科教授）
 田 口 麻 奈（文学部国文学科准教授）
 牛 山 恵（キャリア支援センター特任教授）
 梶 守 光 恵（キャリア支援センター特任教授）
 山 崎 隆 夫（教職支援センター特任教授）
 杉 本 光 司（情報センター特任教授）

【昇任】

富 永 貴 公（教養学部地域社会学科准教授）
 小 島 恵（教養学部地域社会学科准教授）
 小石川 正 文（文学部国文学科特任教授）

事務職員

【転出】

議会事務局再任用	藤 江 隆 （学生課課長）
市民部税務課主幹（兼）課長補佐	鈴 木 卓 （総務課課長補佐）
選挙管理委員会書記次長（主幹）	横 瀬 晴 紀 （経営企画課課長補佐）
福祉保健部福祉課副主査	柏 木 秋 宏 （学生課副主査）
会計課副主査	武 井 千 春 （総務課副主査）
産業建設部上下水道課主任	権 守 望 （経営企画課主任）
総務部総務課主事	小 川 京 子 （総務課主事）

【転入】

総務課課長補佐	平 井 鉄 二 （教育委員会学校教育課 （兼）課長補佐・教育首都つる推進監）
経営企画課課長補佐	山 本 香 栄 （市民部地域環境課副主幹）
経営企画課主査	奈 良 健 三 （教育委員会生涯学習課主査）
総務課副主査	木 川 博 隆 （教育委員会生涯学習課副主査）
経営企画課主事	天 野 麻 由 （市民部市民課主事）

【昇任】

学生課課長	中 村 さき子
経営企画課主幹入試室室長	亀 田 浩 行
総務課副主幹	遠 山 政 司
総務課主任	津久井 陽 美
総務課副主査	井 上 邦 男
総務課副主査	都 倉 一 憲
学生課副主査	佐 藤 絵 美
総務課副主査	北 浦 麻奈美
総務課副主査	松 尾 陽 子
学生課主任	栗 賀 暁
学生課主任	渡 邊 誠 大

【採用】

経営企画課入試担当主任	青 木 敦 生
総務課図書館担当主任	藤 原 達 生
総務課図書館担当主査専門職員	谷 内 和 子
総務課図書館担当主査専門職員	田 中 由 美
学生課保健センター担当主任保健師	遠 山 喜与子
学生課教職担当主査専門職員	谷 内 正 美
学生課教務担当主任専門職員	有 馬 治 子
総務課研究支援担当主任専門職員	谷 内 陽 子
学生課保健センター担当保健師	小 坂 真 代

編集後記

長瀬由美

学報第143号をお届けします。例年この時期の学報には卒業式・入学式の模様が掲載されますが、いずれもやむなく中止となりました。かわって、コロナ禍に大学がどう対応したかをお伝えする頁を設けています。

そこに記載されていますように、本学でも四月以降授業は原則遠隔にて行うこととなりました。多くの学生や教員にとって、パソコン等を利用した遠隔授業の試みは初めてのものです。私も、まさか機械音痴の自分にはオンライン授業なんて出来ないでしようと思っていたくちですが、否応のない状況のなかで、講習を受けたり、ときに学生さんに便利な機能を教わったりしながら、手探りで授業を組み立ておそろおそろ開始したのでした。

それが今ではすっかりZOOMにも馴染んでいる、そんな自分に少々驚いていますが、ともあれ図らずも体験したオンライン授業を通して、個人的には新たな夢も生まれてきました。私は、源氏物語と平安朝漢詩文をおもな研究対象にしていますが、研究者人口に恵まれた源氏物語に比して、平安朝漢詩文の研究者はとても少ない。ですが、日本漢文学については、実は海外に優秀な研究者が何人もいます。

「ステイホーム」期間中によく散歩した、自宅近くの道。遠隔授業での仮想背景としても活用しました。



日本文化や日本文学を考えるうえで、古代日本人が「漢文」で記した作品群は、彼らの強い関心をひくようです。ヨーロッパにおけるラテン語に擬えられたりもします。漢文・ラテン語はいずれも、古代東アジアとヨーロッパで国境を超えて共有され、文化と教育の欠かせない基礎として尊重されていたわけですが、この「ユニバーサル」なラテン語・漢文に修熟した知識人によって、各国の「ローカル」な言語・文学はいよいよ洗練される、ということがあります。日本でも大学寮で漢籍を学んだ文人こそが、その知識を基盤にして、『古今集』のようないわば正統なローカル言語・文学を完成させていきます。東京に集まらずとも、どこにいても繋がれるオンラインの世界は、マイナーな研究領域の研究者同士の交流をより気軽に活発なものにしてくれそうです。

ぶんだい堂

「引用」ガイド
レポート・論文をさらによくする



佐渡島紗織、オリベイラ・ディエゴ、嶋田大海、デルグレゴ・ニコラス 著
2020年06月 発行
大修館書店

◇ Delgrego Nicholas Dirk
語学教育センター 講師

変貌する豊田
グローバル化と社会の変化に直面するクルマのまち



丹辺 宣彦 / 中村 麻理 / 山口 博史 編著
2020年2月 発行
東信堂

◇ 山口 博史
比較文化学科 准教授

教育改革
共生時代の学校づくり



藤田 英典 著
1997年6月 発行
岩波書店

◇ 藤田 英典
学長

公立大学法人
都留文科大学

〒402-8555 山梨県都留市田原 3-8-1
☎ 0554-43-4341
URL: <http://www.tsuru.ac.jp/>

都留文科大学報 第143号 2020年7月10日発行

都留文科大学広報委員会

鈴木健大 (委員長)・日向良和 (副委員長)・田中昌弥 (担当副学長)・長瀬由美・加藤めぐみ・齊藤みどり・佐々木南実・水口 潔・藤江 毅 (情報センター)・山本香栄 (経営企画課長補佐)・雨宮容一 (企画広報担当)・関戸聡子 (企画広報担当)・天野麻由 (企画広報担当)